

# ひょうごの遺跡

平成19年  
3月30日発行

63号

兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

〒652-0032 神戸市兵庫区荒田町2-1-5 TEL 078(531)7011 FAX 078(531)7014

ホームページアドレス <http://www.hyogo-c.ed.jp/~maibun-bo/>

## 特集 平成18年度の発掘調査

兵庫県教育委員会は県内で遺跡の発掘調査を行っています。今号では埋蔵文化財調査事務所が今年度に発掘調査を行った遺跡のうち、特に坂元遺跡（加古川市）、豆腐町遺跡（姫路市）を中心にご紹介します。

### 1. 坂元遺跡

加古川市野口町坂元

6世紀代の古墳が見つけられました。6基見つけた木棺のうち、2基の床には水銀で作られた赤い顔料が塗られ、さらに管玉やガラス玉などが副葬されていました。

水銀朱に彩られた  
豪族の墓を発見

### 2. 豆腐町遺跡

姫路市駅前町

旧姫路駅構内で煉瓦製の機関車用転車台（ターンテーブル）を発見しました。この転車台は明治21年（1888年）開業の山陽鉄道で用いられたものです。

現代の線路の下で  
陸蒸気の転車台を発見

# 1. 坂元遺跡

か こ がわ し の ぐちようさかもと  
加古川市野口町坂元

～ 水銀朱に彩られた豪族の墓を発見～



南西方向から見た遺跡の全景

加古川小野線（東播磨南北道路）道路改築事業に先立ち、坂元遺跡の調査を行いました。坂元遺跡の発掘調査は平成14年度から開始し、今年で5年目の調査となります。これまでの調査で、弥生時代の方形周溝墓、古墳時代の埴輪窯や古墳、奈良時代の掘立柱建物群など、この地域では知られていなかった貴重な発見がありました。

今回の調査では、弥生時代前期の河道跡や、弥生時代後期の土坑、古墳時代の竪穴住居や古墳、鎌倉時代の建物や溝などが見つかりました。

## 墓 域

別府川に沿った標高8m前後の段丘上で6世紀後半の古墳4基、木棺墓2基、土壙墓4基が見つかりました。いずれも段丘の崖に沿って造られています。

古墳には崖によって半分に削られているものがあるため、本来はもう少し崖が西側に、別府川近くまで伸びていたものと考えられます。

これら別府川を見下ろす斜面に造られた墓は、南側でこれまでに見つかっている集落の墓であったと考えられます。



崖沿いに並んでいる古墳や木棺墓



## 水銀朱を散布した木棺

木棺内に水銀より作られた「朱」を散布した墓が2基見つかりました。水銀朱は5世紀代に古墳の葬送儀礼の中で好んで使われた鮮やかな赤色をした顔料です。水銀朱を撒くことに特別な意味があったようです。

今回水銀朱が使われた木棺からは、ガラス小玉や管玉が出土しています。この2基以外の墓からはこのような遺物が見つかりません。このことから水銀朱の使用された2基の墓は、他の墓の被葬者とは区別される特別な人の墓であったと考えられます。



## 鎌倉時代の大きな溝

調査区の中央辺りを南北にまっすぐ掘られた溝が見つかりました。出土した瓦や土器から、鎌倉時代に造られたと考えられます。幅が7m、深さが70cmを超えるところもあります。近くで建物跡が見つかりしているため、この溝は区画の溝であった可能性があります。

## 昔の別府川の流れ

段丘の西側に位置する低地の調査では、別府川の古い流れが見つかりました。現在のように護岸工事が行われた川からは想像のできないことですが、昔の川の流れは実に自由自在でした。洪水などによって、何度も川の流れが変化した様子が調査で判明しました。

その川岸を、北から南へ向かって歩いた足跡が見つかりました。最低でも2種類以上の大きさがあります。弥生人家族が川岸を歩き、家へ帰っていったのかもしれません。



## 2. 豆腐町遺跡

ひめじしえきまえちょう  
姫路市駅前町

### ～現代の線路の下で陸蒸気の転車台を発見～

明治21年冬、午前6時に兵庫駅を発車した列車は、途中、須磨、垂水<sup>たるみ</sup>、明石、大久保、土山、加古川、阿弥陀<sup>あみた</sup>（曾根）に停車、2時間10分後の8時10分に終点姫路駅に到着しました。この頃午前6時から午後6時30分までの間に6往復の列車が兵庫、姫路間を行き来していました。当時の機関車は蒸気機関車であり、折り返して運転する際、機関車の方向を転換する必要がありました。そこで転車台が用いられるのです。転車台は、機関車に石炭や水を補給する施設とともに鉄道の起点・終点となる駅には欠くことのできない施設でした。



### 転車台の構造

今回の調査で発見した転車台は、機関車を載せ回転させる<sup>けた</sup>桁を失っていましたが、転車台ピットと呼ばれる地面を掘り込んだ部分がよく残っていました。

壁と床の一部は煉瓦で造られています。煉瓦の積み方は、煉瓦の長側面を並べる段と、短側面を並べる段が交互になったイギリス積みと呼ばれるものです。煉瓦は基礎から最上段まで17段（約1.5m）積み上げられています。煉瓦積みの壁によって

囲まれた内径は約12.5mになります。床面は<sup>たた</sup>叩き土で仕上げられています。叩き土とは、石灰、赤土、砂利とニガリ（塩化マグネシウム）を練り上げたもので、家の土間などに用いられます。転車台の床はコンクリートが多く、叩き土の床は珍しいといえます。







床面の中央には桁を支え、回転軸を載せる中央支承台<sup>ちゅうおう ししゅうたい</sup>があります。この台は花崗岩<sup>かこうがん</sup>を整形して作られています。また床に溜まる水を排水するための枅<sup>た</sup>も設置されています。

叩き土と中央支承台からなる床の白色。それに対し壁面などに用いられる煉瓦の赤色。その鮮やかなコントラストは当時の人々にどのように映ったのでしょうか。



刻印や文様のある煉瓦 これらは何を意味するのでしょうか？

## 煉 瓦

使用された煉瓦は、大きさにばらつきがあるものの、明治時代に兵庫県から岡山県の鉄道施設に用いられたものとはほぼ同じサイズのもので、煉瓦の平面には漢字やカタカナ1文字を刻印したものがああります。これら刻印は煉瓦の製造所や職工を示すものと推定されますが、現時点ではどこで生産したものか判明していません。刻印のほかに楕状の工具を用いて文様を描いた煉瓦もありました。

今回調査した転車台は、わずか十数年でその使命を終えています。機関車の大型化に対応できなかったのがその理由と思われます。その後姫路駅には2、3代目の転車台が造られましたが、蒸気機関車が姿を消して久しい今日の姫路駅に転車台の姿はありません。



現存する転車台（北陸本線高岡駅）



転車台の傍ら<sup>きしん</sup>を姫新線の列車が走る。

### 3. 英賀保駅周辺遺跡第4地点

姫路市苦編・町坪

英賀保駅周辺土地区画整理事業に伴い平成17年度から本発掘調査を実施しており、今年度は道路予定地の一部について、2回に分けて約8,900㎡の本発掘調査を実施しました。調査では縄文時代から中世にかけての遺構や遺物が見つかりました。

#### 縄文土器出土状況

自然の流れの砂礫層から出土した縄文時代後期の深鉢です。生活の痕跡は確認できませんでしたが、ほぼ完全な形で見つかったため、付近で生活していたものと考えられます。



#### 弥生時代の竪穴住居

円形の竪穴住居の黒っぽい埋土を洗うと、大量のサヌカイトのかけらが見つかりました。いっしょに見つかった石鏃や石錐などをこの住居で作っていたのでしょうか。弥生時代前期頃と考えられ、近くからは同じ埋土の掘立柱建物も見つかっています。

#### 古墳時代初頭遺物出土状況

溝から多量の土器や木器が出土しています。このほかに土坑や柱穴を伴って、多量の土器が出土しています。中には吉備・讃岐・河内地域から運ばれた土器も含まれています。



#### 中世の掘立柱建物群

12世紀から14世紀にわたる建物跡が30棟ほど見つかっています。建物跡は散漫に分布しており、典型的な散村景観を示しています。12世紀頃には建物が広範に分布しており、中世における農地開発の進展をよく示しています。





竪穴住居跡

#### 4. 南塩田遺跡

かとうしかいはらのむら  
加東市貝原、野村

一般国道372号野村河高バイパスに伴う調査で、自然堤防の上に位置したことから、川の氾濫などの影響も少なく、古来より人が住むのに適していたようです。調査の結果、弥生時代後期の竪穴住居跡や、戦国時代の池状の遺構が見つかりました。



粘土採掘坑群

#### 5. 津万遺跡

にしわきしつま  
西脇市津万

一般国道175号西脇北バイパスに伴う調査で、中世の掘立柱建物跡や弥生時代の竪穴住居跡、古墳時代の土器作りの粘土を採掘した跡などが見つかりました。粘土採掘坑からは鋤や土器が出土しています。



1号墳木棺

#### 6. 内高山東古墳群

あさごしわだやまちょうひらた  
朝来市和田山町枚田

内高山東古墳群は和田山盆地西側の丘陵部に位置する古墳群です。1号墳は尾根上に築かれた5世紀末の楕円形の古墳です。3基の木棺があり、古い時期の2基は並んで葬られていました。須恵器・玉類とともに多くの鉄器を保有しています。棺内に刀・矛・斧・刀子<sup>す</sup>を、棺上に鉄鍬群<sup>てつぞく</sup>が置かれていました。



今号で紹介した遺跡の位置

## 平成18年度の主な発掘調査遺跡一覧 (No.18～34は出土品整理)

No.	遺 跡 名	所 在 地	事 業 名	調査の概要
1	津万遺跡群	西脇市津万	一般国道175号西脇北バイパス事業	弥生時代の集落跡・粘土採掘坑
2	上工山古墳群ほか	朝来市和田山町枚田	一般国道483号北近畿豊岡自動車道和田山八鹿道路	古墳時代の横穴式石室ほか
3	鳥居遺跡	豊岡市出石町鳥居	鳥居地区河道掘削工事	弥生時代～近世の土器群
4	北田原・南田原条里遺構	川辺郡猪名川町南田原	(主)川西篠山線緊急道路整備事業(北野バイパス)	中世の集落跡
5	南辻遺跡	伊丹市昆陽3丁目	都市計画道路塚口長尾線街路事業	近世の町屋跡
6	天王山古墳群	加古川市八幡町上西条	(主)加古川小野線(東播磨南北道路)道路改築事業	古墳時代後期の横穴式石室
7	坂元遺跡ほか	加古川市野口町坂元ほか	(主)加古川小野線(東播磨南北道路)道路改築事業	古墳時代の墳墓、中世の集落跡
8	曾我井・堂ノ元遺跡	多可郡多可町中区曾我井	地域連携推進事業(道路改築)(国)427号曾我井バイパス	中世の集落跡
9	曾我井・野入遺跡	多可郡多可町中区曾我井	地域連携推進事業(道路改築)(国)427号曾我井バイパス	中世の集落跡
10	南塩田遺跡	加東市貝原	地域連携推進事業(道路改築)(国)372号野村河高バイパス	弥生時代・中世の集落跡
11	豆腐町遺跡	姫路市駅前町	JR山陽本線等姫路駅付近連続立体交差事業	奈良時代の集落跡、近代の転車台
12	仮称姫路駅周辺第3地点	姫路市市之郷	緊急街路整備事業 大日線	弥生時代の集落跡
13	大蔵遺跡ほか	淡路市山田	(一)鮎原江井線道路改良・(一)明神安乎線道路改良事業	中世の集落跡
14	井手田遺跡	南あわじ市阿万上町	主要地方道洲本灘賀集線(阿万バイパス)道路改良事業	弥生時代～中世の集落跡
15	久保ノ向遺跡	洲本市鮎原南谷	(二)都志川農業構造改善等関連河川事業	中世の集落跡
16	仮称姫路駅周辺第3地点	姫路市日出町	県営姫路日出住宅及び県営姫路日出住宅第2-1期建替事業	弥生時代～古墳時代の集落跡
17	英賀保駅周辺遺跡第4地点	姫路市苜編・町坪	中播磨都市計画事業英賀保駅周辺土地区画整理事業	弥生時代～中世の集落跡
18	沢野遺跡ほか	丹波市青垣町沢野ほか	一般国道483号春日和田山道路(Ⅰ)	弥生時代～鎌倉時代の集落跡ほか
19	栗鹿遺跡・加都遺跡ほか	朝来市山東町栗鹿ほか	一般国道483号春日和田山道路(Ⅱ)	弥生時代～中世の集落跡ほか
20	福中城跡・神出窯跡ほか	神戸市西区平野町福中ほか	一般国道175号(神出バイパス)建設事業	室町時代の城跡ほか
21	楠・荒田町遺跡	神戸市中央区楠町	神戸大学医学部付属病院埋蔵文化財発掘調査	平安時代末の堀・櫓跡ほか
22	南本町遺跡	伊丹市南本町	都市計画道路尼崎港川西線都市計画街路事業	奈良時代～中世の集落
23	溝之口遺跡・坂元遺跡	加古川市加古川町溝之口ほか	JR山陽本線等連続立体交差事業	弥生時代～中世の集落跡
24	豆腐町遺跡・北条遺跡	姫路市豆腐町ほか	JR山陽本線等連続立体交差事業	弥生時代～近世の集落跡
25	今宿遺跡・山吹遺跡	姫路市西今宿	(街)山吹線緊急街路整備工事	古代の瓦溜ほか
26	川戸遺跡・小茅野後山遺跡	宍粟市山崎町川戸ほか	(主)宍粟香寺線単独道路改良工事	弥生時代後期の集落跡他
27	平瀬遺跡ほか	佐用郡佐用町円光寺	(国)373号地域連携推進事業(特殊改良1種)	古墳時代～中世の集落跡ほか
28	宮内堀脇遺跡	豊岡市出石町宮内	(一)町分久美浜線道路改良事業	室町時代の屋敷地
29	長見寺廃寺址	三方郡香美町香住区香住	(国)178号香住道路ランプ道路改良工事	飛鳥時代～奈良時代の古代寺院ほか
30	三沢迦山北麓群遺跡群	篠山市大山下ほか	丹波並木道中央公園整備事業	弥生時代の集落跡ほか
31	富島遺跡	淡路市富島	富島震災復興土地区画整理事業	縄文時代～中世の集落跡、製塩炉
32	戸牧1号窯跡ほか	豊岡市戸牧	公立豊岡病院移転新築事業	7世紀中頃の窯跡ほか
33	野田窯跡	加西市野上町野田	青野運動公園土地信託事業	古墳時代の窯跡ほか
34	坂元遺跡Ⅱ	加古川市野口町坂元ほか	東播磨都市計画事業坂元・野口土地区画整理事業	弥生時代～鎌倉時代の集落跡ほか



兵庫県立考古博物館

お し ら せ

●当事務所は新年度から兵庫県立考古博物館に統合され、名称が変わります。  
そして、本庁舎は現在神戸市にありますが、夏には加古郡播磨町大中に  
整備中の考古博物館内に移転します。なお、この情報誌は継続する予定なので、考古博物館共々どうぞよろ  
しくお願いします。



県立考古博物館完成予想図